行政視察報告書　　総務文教委員会　　　2017年10月12日(木)

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　11番　石井通春

|  |  |
| --- | --- |
| 視察先 | 岩手県矢巾町 |
| 研修テーマ（調査項目） | 学校給食の地産地消への取組 |
| 1. 取組の内容評価   ・自校方式からセンター方式へと切り替えて地産地消消化率の向上につながった（普通は逆だが）  ・提供団体は3団体と25名の農家（兼業）  ・自校方式より農家の数は減っている様子だったが、地産地消へとつながっているのはJAシンセラから出荷予定の情報があり、それを献立に組み入れる事が出来ている点にあると思う。  ・JAからの一括納入  ・自校方式自体は、学校ごと個々の小さいところとの契約であった（JAは協力程度）  ・県産食材　2004年59%から2005年64%  ・町内産食材　同年比　14%から50%  ・しかしこれらの事は、藤枝市規模のセンター方式では不可能では。中学校2校程度であれば取り入れる事が可能ではないか  ・町の面積も小さく（町内全域の移動に10分程度しかかからない）輸送中給食が冷める事もなさそう。この点でも本市とは根本的に異なる   1. 今後の課題   ・米飯は週4回にとどまっている  ・農家高齢化による安定供給体制が維持できるか  ・盛岡市に近くベッドタウン化が進んでおり（人口が増えている）それに対する対応など   1. 本市に反映できると思われる点   ・自校方式でなくても、現在の3分割ではなく各地区ごとのセンター方式であれば、矢巾町と同規模の形で実施が可能ではないか   1. その他 | |